

米山奨学委員長会議および カウンセラー研修会

米山奨学委員会

委員 小山 義之 (大阪鶴見RC)

日時：2011年7月30日

場所：大阪薬業年金会館 301号室

参加者：ガバナー 岡部 泰鑑
米山担当顧問パスト・ガバナー 若林 紀男
IM3組ガバナー補佐 三村雄太郎
地区米山奨学委員会委員長 武島 秀吉
地区米山奨学委員会副委員長 吉田 悦治
田中 真人
西谷 雅之

地区米山奨学委員会委員

各クラブ米山奨学委員 40名 (含代理)

カウンセラー 25名

参加者計 97名

2011年度米山奨学委員長会議及びカウンセラー研修会は、7月30日10時より、大阪薬業年金会館で97名のご出席を頂いて開催されました。吉田米山奨学委員会副委員長の司会進行により、来賓紹介及び資料確認に続き、岡部ガバナーの挨拶があり、「米山奨学制度は独特の奨学制度であり、我々ロータリアンは米山奨学生と交わる中で教わることが多い。大事なのは支援するのではなく、互いに交わることである。」とのお話を頂きました。

続いて、米山奨学委員会担当顧問の若林パスト・ガバナーより、「米山奨学会の今後の展望」についてお話を頂き、「今後米山奨学生の採用方法を従来の既に日本に留学している学生の他、外国で日本留学の決まっている人の中からも採用することを検討している。今回の震災・原発事故により、米山奨学生の一部が一時帰国したが、既に全員日本に戻ってきている。米山財団は公益財団法人として認定された」等のお話を頂きました。

次に、武島委員長より、今年度の地区米山奨学委員会活動方針についての報告があり、「米山奨学制度の特徴はカウンセラー制度にあり、カウンセラーの皆様には是非しっかりと奨学生を育てて頂きたい。

各クラブの米山奨学委員の皆様には、色々と工夫して楽しく寄付金を集めて頂きたい。地震災害等が発生した際には、米山事業は未来の危機管理の一環として、世界との心の通った連帯により、安全を担保することができるのではないか。」とのお話を頂きました。

続いて、各クラブの委員長を5グループ、カウンセラーを3グループにそれぞれ組分けして、それぞれ次のテーマにより約50分間の討論をして頂きました。

- ① ロータリアンの米山奨学事業の理解を深め、寄付金を増やすにはどうすればいいか。
- ② 奨学生の世話で困ったこと、良かったこと。
- ③ カウンセラーを引き受けてみて疑問に思ったこと。

(委員長のグループは①又は②、カウンセラーのグループは②又は③をテーマとする。)

各グループの討論は極めて活発に行われ、討論終了後、各グループリーダーより、内容をまとめて発表して頂きました。

発表後、三村IM3組ガバナー補佐より、「大変熱心な討論により、有意義な研修会であった。」とのご講評を頂きました。

最後に、田中副委員長より、閉会の辞があり、研修会を締め括られました。

